

# 医療・福祉よりカジノ

## 大阪府予算 咲洲庁舎に10年間で256億円超

大阪府議会で来年度予算案の審議が2月25日から始まった。松井一郎知事が提案した予算案は、歳出を大幅に増やしてカジノ万博と「大阪都」構想関連に重点配分する一方、福祉医療費助成や子どもの貧困対策を後回しにする内容になっている。

## 被災者支援盛り込まず

大阪府咲洲庁舎関連の10年間の主な事業費 (2010~17年度は決算、18~19年度は当初予算)	
WTCCビル購入費	84億9734万6000円
咲洲庁舎移転費	9571万6887円
咲洲庁舎維持補修費	5億1099万4456円
咲洲庁舎整備費	34億8572万2668円
咲洲庁舎緊急補修事業費	5365万5000円
咲洲庁舎管理費	100億6356万9156円
咲洲庁舎移転関係費	1億6216万9134円
咲洲庁舎改修費	3億4489万7665円
長周期地震動抜本対策調査検討費	6602万6000円
咲洲庁舎設備等改修費	21億4973万8560円
長周期地震動追加対策事業費	2億137万3000円
<b>計</b>	<b>256億3120万3126円</b>

一般会計は前年度費1・7%増の2兆5983億円を計上した。歳出では、カジノを中心とする統合型リゾート（IR）立地推進に前年の約4倍となる3億1800万円、「大阪都」構想のための副首都推進局に4億9500万円を配分した。夢洲周辺のアクセス整備に関連し、「高度な都市インフラ形成」として、地下鉄なにわ筋線に前年度の4倍の2億円、淀川左岸線延伸部に同2倍の2億円を注ぎ込む。橋下知事（当時）が購入を決めた咲洲庁舎（旧WTCCビル）の改修・耐

震工事に11億円、管理費に12億円超を計上した。咲洲庁舎には2010~19年度で256億円も費やしており、「無駄が無駄を呼ぶ」状況が続いている。府民向けの医療・福祉施策には厳しい数字が並んだ。福祉医療費助成については18年4月に制度改悪した影響で4億円を

減額。全国ワースト2の子ども貧困問題では、対策費用を増額せずに据え置いた。2018年の地震と台風による一部損壊被災者への補助金は予算計上を見送った。兵庫県や京都府が一部損壊被災者に独自の補助金を支給しており、自治体間格差が顕著になっている。

## 新規開業医講習会

# 有休義務化を解説

### 4月から罰則付きでスタート



有休の付与日数について解説する桂氏＝2月24日、保険医会館

4月から全従業員に年5日以上の有休を――。組織部が2月24日に開いた新規開業医講習会雇用編で講師の桂好志郎社労士が注意を促した。15人が参加した。労働時間法制見直しにともない4月から、法定の年次有給休暇付与日数が10日以上、職員の有休取得義務化などがスタートする。従業員全員が対象で、取得を怠ると対象1人につき30万円以下の罰金を支払う必要がある。またGWの10連休の対応について、法定休日ではなく所定休日、営業日、数日間出勤させた場合は、割増賃金を支払う必要はないと解説した。職員採用では、「面接で迷ったら、急いで採用せずに再度面接を行うことが大切」と説いた。

# 数字で見る 歯科医療

## 需要増える衛生士

	2016年末		2006年末		①-②	対06年
	①	構成比	②	構成比		
25歳未満	13,996	11.3%	18,286	21.0%	-4,237	0.88
25~29歳	17,807	14.4%	17,754	20.4%		
30~34歳	17,865	14.4%	13,893	16.0%		
35~39歳	16,673	13.5%	12,093	13.9%		
40~44歳	18,371	14.8%	10,228	11.8%		
45~49歳	16,267	13.1%	7,549	8.7%		
50歳以上	22,852	18.5%	7,136	8.2%		
計	123,831	100%	86,939	100%	36,892	

厚生労働省「衛生行政報告例（就業医療関係者）」より作成

厚生労働省の「衛生行政報告例」によると2016年末の就業歯科衛生士数は、12万3831人と10年前に比べ、3万6889人増えた。勤め先は、90・6%が診療所だ。年齢構成は10年前と比べて30歳未満が41・5%から25・7%へ、40歳以上が28・7%から46・4%へと逆転した。協会会員意見調査では、19・3%の会員が歯科衛生士を雇用しておらず、23・8%が施設基準



実習で講師の指導を受ける参加者＝2月24日、保険医会館

## シャープニングを実習

### 臨床学部部

臨床学部部はシャープニングセミナーを2月24日、保険医会館で開催した。福池久恵氏ら歯科衛生士3人を講師に24人が参加した。

福池氏は、シャープニング・スケールリングについて「基礎ができていないと、患者数をこなしても質を高めることはできない」として、基礎を身

に付ける重要性を強調した。また、スケールリング「担当した患者さんの根面形態を明示して理解すること」「オペに立ち会ってスケールリングができるかをドクターに指摘してもらうこと」などを紹介した。講演後、参加者は実習に取り組んだ。「正しいストーンとスケーラーの角度を理解できた」「手を取って教えていただき、0度挿入の感覚をつかめた」などの感想が寄せられた。

大阪の歯科医院で働きたい人のための  
求人情報サイト

毎月15日更新

- ▷府内中心の歯科求人情報
- ▷スマホからの閲覧も可能
- ▷大阪府歯科保険医協会運営

アクセスはコチラ

http://osk-net.org/job/



NPO法人  
「最先端のむし歯・歯周病  
予防を要求する会」理事長  
西 真紀子

## 修復はメイン ではなくなる？

一方、歯科医師にしかできない修復や補綴は、齲蝕が減っているとはいえ、残存歯が増えていくために、「アマルガム世代」や「ヘビメタ世代」と呼ばれる現在の50代以降の補綴物のやり直しの需要が多い。「1」。

# 「ヘビメタ世代」の需要多い

## 歯科教育の 変化への対応

このような歯科医師への需要の変化に対して、歯学部教育は柔軟に対応しているのだろうか。教育カリキュラムは、5年間の歯学部教育を卒業すると、すぐに一人前の歯科医師として働けるように組まれている。歯科医師免許は大学の卒業試験で与えられる。つまり、日本の国家試験に当たるものがない。大学が責任をもって、一人前の歯科医師を輩出するのである。

スウェーデン内で学生から最も評価の高い教育を行っているのが、マルメ大学で、1990年から問題解決型学習法（PBL）を採用している。PBLとは、学生に、これから訪れる長い歯科医学生人生を通して、自分で学び続ける方法を教育することが目的である。大学時代で学んだ知識自体は、早かれ遅かれ廃れてしまうものだからである。



日本人の「ヘビメタ世代」の上顎咬合面観。45歳男性。写真提供：高森泰彦先生

参考文献

1. Nordqvist O, Koch G, Panis A, Kohler AA, Hakimo AN, Brahm OJ, et al. Oral health of individuals aged 3-80 years in Jönköping, Sweden during 40 years (1973-2013). II. Review of clinical and radiographic findings. *Swed Dent J*. 2015;39(2):99-86.
2. Rahim M, Petersson K, Stenstam G. The Malmo model: a problem-based learning curriculum in undergraduate dental education. *Eur J Dent Educ*. 1988;2(3):103-114. Epub 1989/12/18.